



神奈川
県議
会議員
**おの
のでら
慎一
郎**
しんいちろう



Asahi
Policy
Digest

月刊 おのぞら慎一郎
2014年3月増刊号

ご感想をお聞かせください!

◎Mail: info@onodera-s.com

◎Fax: 045(442)8101

◎Tel: 045(442)8100

〒241-0821

横浜市旭区二俣川2-58-12 Sビル2F

http://www.onodera-s.com

http://twitter.com/#!/onodylan

twitter

今の私に、生き抜く力はあるだろうか。



【第5回】 かながわ未来フォーラム

近年の大規模災害に学ぶ地域防災のあり方

講師 片田敏孝氏

群馬大学広域首都圏防災研究センター長
群馬大学理工学研究院教授

かながわ未来フォーラムは「防災」を考えます。

あの大震災の、あまりに残酷な光景を目の当たりにして、国民の防災・減災への意識は一気に高まりました。あれから3年。私たちは、災害に対し、どれほど強くなれたのでしょうか。

今回の大雪災害では、**想定外**に対する脆さを露呈してしまいました。そもそも「想定」とは、何なのでしょう。群馬大学の片田敏孝教授（災害社会学）は、想定には二つの意味がある、と説きます。

一つは、大自然の可能性として「あり得る想定」。日本最大の明和と津波（1771年）の遡上高は石垣島で85m。関東ロー層ができるぐらいの富士山大噴火が、もう一度あるかもしれない。しかし、

それを前提に防災を考えると、「何をやってもムダ」となりかねません。そこで、二つ目に、防御が可能で一定の災害レベルとして「防災における想定」を設けることになります。

しかし、それはあくまで「防災上の目標」であり、そこにとらわれ過ぎることの危うさを、「想定外」という言葉は教えてくれます。

3年前、学校にいた小中学生の全員が、空前の大津波から逃げ切った「釜石の奇跡」は、片田先生の想定にとらわれない防災教育から生まれました。私も実行委員を務める「かながわ未来フォーラム」では、改めて大災害を生き抜く力について考えます。

【日時】 2014年3月9日（日）【入場無料】

【開場】 13時30分 【開演】 14時00分

【会場】 横浜市教育会館ホール（横浜市西区紅葉ヶ丘53）

お問合せ・参加お申込みは

「かながわ未来フォーラム」

ホームページ

http://www.miraiforum.jpから。

または、公明党神奈川県議団

☎045-210-7630までお電話で。

視点 2014

経済的自立へ、「第3の雇用」を。

京都府にあるI-style(エクスクラメーション・スタイル)は、NPOや株式会社、社会福祉法人などの共同プロジェクト。2002年に2人の若者が「ビジネスと福祉の融合」を目指してスタートさせ、発展してきました。

I-factory(エクスクラメーション・ファクトリー)は基幹事業のひとつ。就労移行支援事業と就労継続支援B型の事業を行なう、いわゆる地域作業所ですが、白を基調にデザインされた明るい工房で、クルーと呼ばれる知的障がい、精神障がいをもつ方々が、スタッフと一体となって働いています。

その光景は、作業所というより、欧州で1万社を超え、大きな成果を上げている社会的企業「ソーシャルファーム」のイメージと重なるものでした。

ソーシャルファームとは、障がい者や元受刑者、引きこもりの若者など、就労に困難を伴う人々のために、安定的な雇用と自立できる賃金を確保する目的をもって活動する企業や組織の総称です。

起業支援が必要

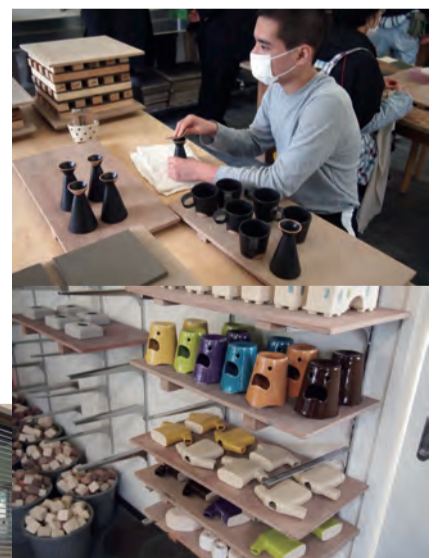
地域作業所などの福祉的就労は、予算の制約で定員に限りがあり、賃金も低い。一般企業での雇用にも限界がある。ソーシャルファームには、そのどちらでもない「第3の雇用」として、期待が高まっています。

ソーシャルファームは、税金を使った福祉サービスではなく、ビジネスとして成立させなくてはならないため、経営者には、多くの就労困難者を雇用しながら市場競争力のある商品やサービスを創出する、卓越し

た経営能力が求められます。県として、このような社会的起業に対し、どのような支援をすべきなのか。昨年12月の本会議で、知事に質しました。

知事からは、まず、ソーシャルファームの先進的な事例を調べた上で、県のホームページ等を使って広く紹介し、その認知度を高めること。さらに、起業支援のノウハウを持つ支援機関と連携し、これからソーシャルファームを立ち上げる方が、

ビジネス上の課題を解決できるよう、専門的な相談、指導を行う旨の答弁を得ました。



I-factoryでは、陶器製品の製造やレストランから注文を受けた食品加工、デリカテッセンやカフェの運営などの就労訓練を通じ一定の利益を上げ、法人やそこで働く人々の経済的自立性を高めている。

暮らしの中に生きるロボット。普及拠点をさらに充実



昨年、寝たきりの方のための排泄支援ロボットを視察しました。介護される側の尊厳を傷つけることなく、介護する側の負担を大幅に軽減できるように

なったことに驚くとともに、リースと介護保険制度により少額で利用できることを知り、大変な魅力と可能性を感じました。

一方で、このようなロボットを県民が身近に見たり触れたりする機会が少ないため、その有用性についての理解が進まず、生活の中にロボットを導入することがイメージしづらいことも事実です。

そこで私たちは、介護・福祉ロボットを中心とする生活支援ロボットの認知度を高めるために、デモンストレーションやイメージ戦略の必要性を訴えてきました。12月議会における私の質問に対し黒岩知事は、介護や高齢者見守りロボットなどを住宅展示場等に配置し、多くの人々がロボットのある暮らし

しを体験できる「ロボットハウス」や、巡回警備や移動支援などを行うロボットの体験機会を「まち全体」で提供する「ロボットタウン」構想を進めることを明らかにしました。

推進の先駆けとして

また、2月議会では、「さがみロボット産業特区」のイメージキャラクターに起用した「鉄腕アトム」を最大限に活用した広報を展開すると表明。アトムを前面に出した特区専用のホームページの中で、CGや動画などを駆使し、生活支援ロボットが暮らしの中で活躍する姿を描いていくとともに、「さがみ」から生まれるロボットの開発・実証風景も紹介すると答弁しました。

「ロボット産業という最先端のテクノ

ロジーを生かし、経済と福祉の両面から県民生活の安全と安心を守っていく。はじめにこのアイデアを提供してくれたのが公明党」と黒岩知事も認めるとおり、私たちは県のロボット政策を先駆的に推進してきたと自負しています。超高齢社会に突入し、大災害の切迫性が叫ばれる今、ロボットの開発と普及の重要性は増すばかりです。



ロボットスーツHAL®を健康管理やリハビリに活用する事業を行うく湘南ロボケアセンター(株)。>。(藤沢市)

おのでら慎一郎 — 公明党県議団が推進！

県のさまざまな企画・事業を国内外に発信し、世界から人と投資を呼び込むためには、ターゲットやテーマに応じて有力なメディアの力を利用するなどの戦略が必要であり、そこには媒体の特性を踏まえたプロモーションが不可欠と、12月の議会で指摘しました。

知事も同じ考えということで、26



人とお金を動かす広報戦略。年度には広報戦略の立案機能を知事室に集約し、民間の力も取り入れながら、タイムリーにインパクトのある情報発信を行える組織を構築すると答弁。

2月議会では、より具体的に、民間での広報、宣伝業務経験者と、ホームページのデザイン及び運用業務経験者をそれぞれ任期付職員として採用すること。さらに、テーマに応じた広報戦略を企画立案するプロデュース業務や、テレビ番組や雑誌などのメディアへの積極的な働きかけなどを民間の専門業者に委託し、県内はもちろん、広く全国、ひいては海外へのメッセージ発信も視野に入れた活動を展開していくことを明らかにしました。

漢方薬は、抗がん剤治療の副作用を軽減し、緩和ケアにおける体力維持にも効果があるとされています。

昨年12月議会で私は、県立がんセンターに開設される漢方サポートセンターについて質問。本年4月から、漢方の専門医などにより週4日の専門外来が実施されることになりました。漢方は、単に病気の症状だけを診るのではなく、「証」と呼ばれる一人ひとりの体質に着目した診断方法が特徴です。

現在、慶應義塾大学で、専門医以外には難しい「証」の診断を、ITを活用して、症状や体調、体質などの問診項目から明らかにする「漢方診断支援システム」の研究が進んでおり、2月議会での公明党への知事答弁に

健康社会へ「漢方」の活かし方

よれば、県はその研究と連携し、各自がパソコン画面などで「証」を予測、未病(病気に向かいつつある状態)をチェックできる仕組みを来年度早々に公開するそうです。

また、神奈川科学技術アカデミーの、eラーニングを用いた漢方医学の学習システムを活用し、県民や医療関係者への漢方知識の普及を進めていくとしています。



その他、県として保育士就職セミナー・相談会、現場復帰支援研修などを開催しています。

- ① 保育士人材バンク等の受付
- ◎ 保育士として働きたい方の求職等の受付
- ◎ 保育士を採用したい保育所等からの求人受付
- ◎ 再就職支援コーディネート
- ◎ 電話や面談による就職相談
- ◎ 求職者に適した就職先の情報提供、紹介

神奈川県の登録保育士数は7万1千余人ですが、就業保育士は約2万5千人(国の推計)で、登録しているものの就業していない「潜在保育士」は約5万人に上ると考えられます。現在、保育所の急ピッチな整備・拡充に伴って、保育士が不足している状態です。同センターでは、新卒保育士の方をもとより、潜在保育士の方を対象として、左記の業務を行っています。

去る1月24日 横浜駅西口から徒歩5分の「かながわ県民センター」13階に、『かながわ保育士・保育所支援センター』が開設されました。



保育士さんの人材バンク。



神奈川県議会議員

おのでら慎一郎

▼昭和31(1956)年2月12日生まれ▼昭和54(1979)年、学習院大学文学部卒業後、平凡出版(現マガジンハウス)に入社。雑誌『ポパイ』『ブルータス』や書籍の編集に携わる。『ポパイ』第8代編集長▼平成15(2003)年、神奈川県議会議員に初当選。現在3期目▼防災警察委員長、商工労働委員長等を歴任。現在、県民企業常任委員。公明党県議団副団長。

<http://www.onodera-s.com>